

とうきょう すくわく プログラム

こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

若葉保育園 実践紹介！

とうきょう すくわくプログラムってなに？

幼稚園や保育所において、子供たちが好奇心や興味を持って、わくわくしながら遊び、学べるよう応援する取り組みです。取り組みを通じて、子供たちの自己肯定感や思いやりといった豊かな心の育ちをサポートしていきます。



すくすく

すべての乳幼児の
伸びる・育つ

×

好奇心・探究心

を応援する幼保共通のプログラム

東京都

わくわく

「非認知能力」の育成等、乳幼児の成長・発達をサポート

<p>好奇心を持つ きっかけを増やす</p>	<p>考えを広げる</p>	<p>考えを深める</p>
----------------------------	---------------	---------------

すくわくプログラムはどんなことをするの？

安全安心な環境のもと、子供たちが興味・関心を深められそうなテーマを園で設定し、好奇心を持つきっかけを増やしたり、考えを広げ、深めたりする取り組みを行います。

非認知能力とは

- | | |
|---|---|
| 自己に
かかわる心の力
<ul style="list-style-type: none"> ●自尊心 ●自己肯定感 ●意欲 ●粘り強さ | 社会性に
かかわる心の力
<ul style="list-style-type: none"> ●心の理解能力 ●共感 ●思いやり ●協同性 |
|---|---|

テーマに関する子供たちの考えやイメージを引き出すための問い（例：〇〇ってなあに？）を考え、素材や道具を準備し活動を行います。

テーマ例：光・色・自然・音・泥遊び・絵本など

豊かな心の育ちを応援
乳幼児期は、「非認知能力」を培う大切な時

東京大学大学院 教育学研究科 教授 同附属発達保育実践政策学センター (CEDEP) 長 遠藤 利彦

子供が伸びやかに成長していくためには、無限大の好奇心に従って、心躍らせながら遊び学ぶことが重要です。また、同年代の子などと互いの個性を認め合いながら、1つのことに協力して取り組むことも大切です。この認識のもと、東京都と CEDEP は、「とうきょう すくわくプログラム」の支援に連携して取り組んでいます。



とうきょう すくわくプログラムは
こちらからご覧いただけます。

とうきょう すくわくプログラムは、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター (CEDEP) との協定の下、東京都の「とうきょう すくわくプログラム推進事業」として策定したものです。



社会福祉法人志芳慈光会
若葉保育園

電話
042-551-2955

所在地
東京都福生市熊川 1430





とうきょうすくわくプログラムに取り組みました

テーマ 石

石やタイルを使って、素材そのものに触れたり、見立て遊びをしたりしながら遊びを生み出す経験をするために、石をテーマとしました。

活動① 石を見てみよう、触ってみよう

散歩の際に子供が石を拾い、その形に興味を持っていたので、石を観察する活動を行いました。

石を虫眼鏡で観察し、石を触った感触を楽しみました。

ざらざら

つるつる

つめたい



ある子が石を叩き合わせたことから、ほかの子も石をこすりはじめました。石をこすり合わせて白い砂が出てきたとき、先生が黒い紙を出したことをきっかけに、砂を指で触り、虫眼鏡で観察するなど活動がさらに広がりました。



石を積み上げたり、石で「かお」や「ぶた」などの形を作る子もいました。

活動② 石を知ろう

活動①とは異なる、黒石と白石を用意しました。子供たちは自由に石を選び、触れ合いました。



つやつや
している

白い石は
ざらざら

虫眼鏡で石を観察する、200個以上石を並べて数える、画用紙に黒い石で絵や線を描く…など、様々な遊びに夢中になりました。



活動は、子供用のカメラを使って、自分や友達の作品を子供たち自ら記録しました。

活動を振り返って

40分の活動でしたが、石ひとつで子供たちはいろいろな方法で楽しめていました。普段よりも、たくさん言葉を発している子供の姿に驚きました。

活動が終わった後、全員が「楽しかった」と言っていました。一人ひとり自分の場所があったからこそ、じっくり楽しむことができました。

